

団体ボランティア

—独自プログラム団体—

心和む蓄音機 ホーン演奏会

[第26便(3月15日~18日)]

2名(男性2名)

活動内容:蓄音機による演奏会

これまでに単独で山田町他にて活動を実施した後、第26便でボラパックⅡに参加。個人ボランティアが補助に入り2グループに分かれ、仮設住宅談話室・集会所、公共施設等で活動しました。民謡や歌謡曲などのレコード鑑賞を行い、山田町の方々が懐かしいレコードの温かい音に浸る姿や口ずさむ歌声が印象的でした。また、ボランティアとともに法被を着用し手を取り合って踊る方々は大変楽しげで、会場に高らかな笑い声が響きました。

ボラパックはボランティア初心者も参加しやすいスキームがあり安全に最大限の配慮、多様な団体を一貫して支援する態勢が整っていました。

みえボラを通じて三重の皆様と活動するため団体として参加し、三重の次世代を担う若者達、山田町の皆様と語り合う中で、想いに共感させて頂きました。またご当地の民謡等で歌い踊る中で、山田町に代々脈々と受け継がれた郷土文化を感じる事が出来ました。

みえボラでの体験を糧に、三重のボランティアの輪が更に広がることを確信しています。



代表
服部 佳輝さん



三重ラフター (笑い)ヨガクラブ

[第26便(3月15日~18日)]

3名(男性1名/女性2名)

※ボラパックⅡ第6便で参加

活動内容:笑いヨガ体験会

仮設住宅談話室・集会所にて計3ヶ所で活動しました。昨年の活動ではまず、「笑いヨガ」とは何かを知っていただき、慎重に笑いを引き出すところから始まりましたが、時間の経過とともに自然に参加者同士が楽しめる空間が出来上がっていました。笑うことを通して、手を取り合ったり、涙を流したりと、様々な感情を表していたことは大変喜ばしい収穫となりました。

初回はまだまだ皆様が悲しみを堪えておられる様子が伺え、一緒に笑いヨガをする中で、笑い、泣き、笑いながらも涙があふれ、笑顔になっていく方々と過ごせてとても感謝し、心強い力を頂いた思いでした。

2度目は笑って元気になると、とても積極的に笑いヨガに取り組んでくださいました。中でも2歳の坊やも参加の仮設住宅では、この子が皆さんの宝、希望であり、確かな命の継承の尊さを目の当たりにし、共に笑える喜びをに満たされました。



代表
加藤 照美さん



—みえボラプログラム参加団体—

皇学館大学 ボランティアルーム

[第26便(3月15日~18日)]9名(男性4名/女性5名)

活動内容:新聞コサージュ・団体補助

個人ボランティアと新聞コサージュづくり、そして団体「心和む蓄音機ホーン演奏会」の補助と、柔軟に活動に参加していただきました。ボランティア活動に長けた大学生のパワフルな行動力がボランティア同士でも刺激し合える機会となりました。

震災から2年が経とうとする中、原発の報道ばかりで他の被災地の情報が分からず、「私たちの目で見て、感じて、被災地の現状を学生に伝えよう」という思いから、みえボラを利用した。現地では報道だけでは理解できないリアルな現状を体で感じ取った。津波の恐ろしさ、地震が起きたらすぐに逃げる事の大切さを学んだ。未だ支援を必要としている、多くのボランティアに来てほしいという現地の方々の声も聞いた。多くを感じ、学び、多くの人に関われた事、本当に感謝しています。

(代表:久保 圭さん)



ジョイフル アンサンブル

[第 27 便 (3 月 28 日～31 日)]

3 名 (男性 1 名 / 女性 2 名)

活動内容: 音楽レクリエーション

団体「三重大学 めばえサークル」が補助に入り、学童、保育園、公共施設の計 3ヶ所で活動しました。各会場によって参加者の年齢が変化中、柔軟にプログラムを切り替えて活動いただきました。鳴り子を手に走り回ったり、新聞を思い切り破いたり、体を動かすことや遊ぶことに少し窮屈になってしまった生活の中で、気持ち良く声を出して笑う子どもたちの姿がとても印象的でした。また、子どもたちとボランティアが走り回る中、ママたちがゆっくりお茶をしてもらえた時間も貴重でした。

震災後、ショックと悲しさと苦しさと何もできないもどかしさで胸がいっぱいでした。何度か岩手県に足を運ぶ中で、音楽やレクリエーションを通して被災地の方々と「たのしい! 温かい! 一体感を感じられる時間を共有したい」という思いが強くなりました。活動の中で沢山の素敵な笑顔に出会い、勇気や元気、希望をもらいました。音楽と笑顔は世界共通。「人は心でつながっている」ことを改めて教えてもらいました。これからも出会った皆さんの事、東日本大震災の事をずっと忘れず、復興を応援し続けます。



代表
若林 真由美
さん



こころネット

[第 28 便 (4 月 26 日～29 日)]

20 名 (男性 3 名 / 女性 17 名)

※ボラパックⅡ第 2・10 便で参加

活動内容: 子どもも大人もわくわく広場/フラワーポットづくり/音楽会/ぼんぼんマスコット+ミニこいのぼりづくり

3 グループに分かれ、仮設住宅談話室・集会所、公共施設、福祉施設など計 9ヶ所で活動しました。昨年に引き続き第 28 便でも、子どもから大人まで楽しめる多様なプログラムをご用意いただきました。団体からの発案はもちろん、できる限り現地からのニーズに沿ったプログラムの実現に頭が下がる思いです。どの活動も大変人気で会場に参加者が入り切らない場面もある程でした。

「こころネット」の仲間とともに、子どもや女性、障がい者等を対象に、「face to face」被災者と支援者がつながる」を基本に活動してきました。関谷担い手仮設や町民グラウンド仮設には、継続して 3 度訪れ、顔なじみの方もできました。「3 度目の冬、どうしているだろう?」と気にかかります。また、障がい者自立支援施設「はまなす学園」「ケアホームきぼう」の皆さんに、「また、来るね!」と言って別れました。また、行かなくては!



代表
杉本 熊野さん



— 団体補助活動 —

三重大学 めばえサークル

[第 27 便 (3 月 28 日～31 日)] 2 名 (男性 1 名 / 女性 1 名)

活動内容: 団体補助

主に障がい者交流等の活動を行なっているサークル。団体「ジョイフルアンサンブル」の音楽レクリエーションの補助として活動し、絵本の読み聞かせ等も行ないました。

インターネットでボラパックの活動を知り、普段ない機会だと思い参加しました。津波の被害にあった建物や街を見て悲しい気持ちになりました。

しかし、子どもたちとレクリエーションをして一緒に笑顔になる時間をつくることができ、「笑顔になってくれて来てよかった。」と感動しました。ボラパックに参加でき嬉しく思います。

(代表: 岩瀬 徳紀さん)

